Coral Network News

化石サンゴの魅力が満載！

2020 Vol. 3

発行：㈲北海道コーラル・営業部
帯広市西１９条南５丁目７−２
TEL 0155-33-0564
FAX 0155-33-0574
E-mail:info@h-coral.co.jp
発行日：２０２０年９月１日

どなん肥料　バレイショ～天候不順・高温対策　（２Ｐ）
どなん肥料　作物の初期成育向上・豆類の収量アップ　（３Ｐ）
ウルカル飼料　循環型農業～その２：食欲増進・受胎率向上　（４Ｐ）
連載記事　ねんりん ～ 化石サンゴへの思い　（４Ｐ）

コーラルインターナショナル株式会社
沖縄県石垣市字登野城 1181 番地
http://www.coralreg.com

有限会社北海道コーラル
北海道帯広市西１９条南５丁目７−２
TEL:0155-33-0564/0155-33-0574

バレイショ～天候不順・高温対策

北海道・鹿追町　品種：トヨシロ
硫酸 Ca 使用区（５０kg/反）

北海道・鹿追町　品種：トヨシロ
どなん使用区（50 kg/反）

作物の地上部には重要な機能を果たす部位がいろいろと見られるだけに、普段は地下部の根に注目が行きません。しかし、作物の生育を支えているもの、作物の活動の源になっているのは根です。

ここ数年の低温・干ばつ、異常高温・多雨という気象状況を考えると、しっかり根張りをさせることが再認識されています。化石サンゴ肥料「どなん」を使用した畑では、**細かい根が多く生えた良好な根張り**が見られました。

化石サンゴ肥料「どなん」は、多孔質構造となっているので保水力・保肥力を高め根の伸張に寄与します。また、原料である化石サンゴは鉱物化していないので７０種余のミネラルがイオン化し易く、根の伸張に不可欠なカルシウム(Ca)やホウ素(B)、細胞分裂を促す亜鉛(Zn)等を**適時供給する**ことが出来ます。

結果として、枝や葉の繁茂（中段画像）、黄化時期の後退（下段画像）に明らかな差が見られました。

2019年9月トヨシロサイズ分布データ（硫酸Ca区）

サイズ	2L	L	M	S	2S	備考
個数	0	7	20	23	13	全63個
割合	0%	11%	32%	37%	21%	±1%
全収量：4，311ｇ（10ｇ未満は除く）/1個当たりの平均重量68．4ｇ						

2019年9月トヨシロサイズ分布データ（どなん区）

サイズ	2L	L	M	S	2S	備考
個数	4	12	27	8	7	全58個
割合	7%	21%	47%	14%	12%	±1%
全収量：5，672ｇ（10ｇ未満は除く）/1個当たりの平均重量：97．8ｇ						

「品質向上・収量向上」を目指すためには、いかに効率よく光合成をさせるかが大切です。その光合成は、それぞれ役割を持った酵素が連携して成り立っています。

それぞれの酵素が機能するには、マグネシウム（Mg）・鉄(Fe)・銅(Cu)・硫黄(S)・塩素(Cl)・リン(P)等、酵素ごとに特定のミネラルが必要不可欠であり、これらミネラルの**一種類でも不足すると光合成能力全体が低下**する事が分かっています。

化石サンゴ肥料「どなん」には、これら必要なミネラルがすべて含まれていますので、上記の表にあるように収量向上に効果が期待できます。また**Ｓサイズ以下のイモが少なく**なり製品率・品質がアップしています。

作物の初期成育向上・豆類の収量アップ

ゆり根生育試験（右側：どなん使用）・北海道コーラル事務所内

８号の鉢に、市販の球根用の土を約８ℓと根菜類用の肥料２０ｇを入れ、右側の鉢にだけ化石サンゴ肥料「どなん」を８００ｇ混合しました。同一圃場からとれた球根を、それぞれ３個ずつ植えて生育比較をしてみました。（2020 年調査）

① **発芽**：「どなん」未施用の鉢はバラツキが有り、最も早く発芽した苗もあったが、15日以上経過して最も遅く発芽した苗もこの鉢だった。「どなん」施用の鉢は３つの苗が 12 日以内に発芽した。

② **地上部の生育**：「どなん」未施用の苗は生育にもバラツキが有り、最も発芽が早かった苗は問題なく生育したが、1本は枯れ、1本は曲がりくねったものとなった。**「どなん」施用の鉢は、3本の苗がほぼ同じ生育**となった。

③ **収穫**：上根と下根の両方とも、根張りに違いがはっきり出た。根の本数を目視したところ、**「どなん」施用の方が明らかに多く、特に細かい根の生え具合の差は顕著だった。**どなん未施用の1株は根腐れを起こしていた。ゆり根の大きさも目視では、「どなん」施用の苗の方が大きいように思えた。

右の大豆畑の画像は、2019年7月中旬頃に撮影したもので中央より左側は慣行区でグアノりん酸を20kg/10a、右側は化石サンゴ肥料「どなん」を30kg/10aを施肥しています。

見た目の通り右側の「どなん」を施肥した方が生育旺盛で畝がしっかりふさがっています。

収量を比較したところ、慣行区では 4.9 俵/10a、**「どなん」使用区は 5.5 俵/10a**という結果でした。荷受け数量の為、製品数量となるともう少し違いが出るかもしれませんが、ここ数年の平均収量 4.5 俵/10a を考えると、「どなん」を施肥することによる**収量アップの効果がある**との感想を頂いています。

北海道・千歳市　大豆（品種：ゆきしずか）

北海道・十勝清水町　小豆（品種：きたろまん）

左2枚の画像は2012年9月上旬に撮影した小豆畑です。上の画像は慣行区、下の画像は試験区として化石サンゴ肥料「どなん」を３０kg/１０aを施肥しています。

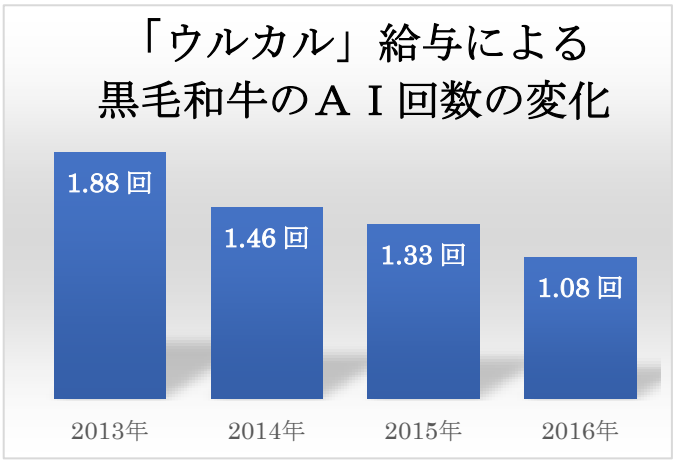
8月中旬にかけてかなりの高温の日が幾度かあり、他の圃場でも早くから黄化が見られていましたが、「どなん」を施肥した圃場では、枝葉がまだしっかりしています。

収量を比較したところ、慣行区では 4.2 俵/10a、**試験区は 5.9 俵/10a**という製品収量でした。

他の圃場では３俵弱/10a という収量でしたので、「どなん」を施肥したことによる収量アップに驚いていました。

化石サンゴ肥料「どなん」には、**根粒菌の活性化に効果を発揮するモリブデン(Mo)**、さらには**根粒菌の窒素代謝の効率を上げるニッケル(Ni)**が天然ミネラルとして含まれています。北海道・帯広畜産大学の試験では、リン酸と同時にモリブデン処理を行なうことで、大豆では約１５％前後、小豆では３０％以上の収量増加の効果があることが報告されています。

循環型農業～その2：食欲増進・受胎率向上



２０１３年７月よりウルカルを給与開始
（北海道十勝管内足寄町の牧場データ）

平均繁殖牛３６頭で、過去１０年間ほどは平均２回前後の人工授精（ＡＩ）による受胎成績でしたが、ウルカルを使うようになってから確実に受胎率が良くなっているというコメントを頂いております。

右側・左側共に２５頭、乳量や年齢もほぼ同じになる様に配置し、右側の牛群のみに「ウルカル」を与えました。乾燥の牧草を与えた後、しばらくして左側の牛群は全頭座って反すうしていますが、右側の牛群は何頭か立ったままでまだ牧草を食べています。結果、右側の牛群の乳量が増えたと報告されました。

ねんりん

～メロン～

今年もお客様より美味しいメロンをいただきました。

こちらのメロンは、【どなん肥料】を使った畑で育てられており味もさることながら、賞味期限の長さが特徴です。

通常のメロンは、食べごろがきてから一週間をたたずに賞味期限を迎えますが、このメロンは食べごろから2週間を過ぎてもまだ果肉が変質していません。

食べた方より『果肉がしっかりしていて美味しい』との評価をいただき、最高のメロンに舌鼓を打つ幸せを感じています。

話は変わりますが、先日牛乳が苦手な方に、知らずに牛乳を送ってしまいました。送られた方は、大変困りながらも思い切って飲んでみたところ、『飲めた、それも美味しい』と、後日牧場に話を聞きに行ったそうです。

22年前より悩みながら進んできたこの仕事。今はお客様に助けられ、沢山のそして最高の商品を作っていただいています。

また、人から人へ伝えていただき様々な方面に広がっています。

心からサンゴに携われたことに感謝をしつつ、この結果こそが巡り合わせだったとうくづくそう思う毎日です。

これからも、自分の与えられた役割に従っていきたいと思っています。

三津田耕二